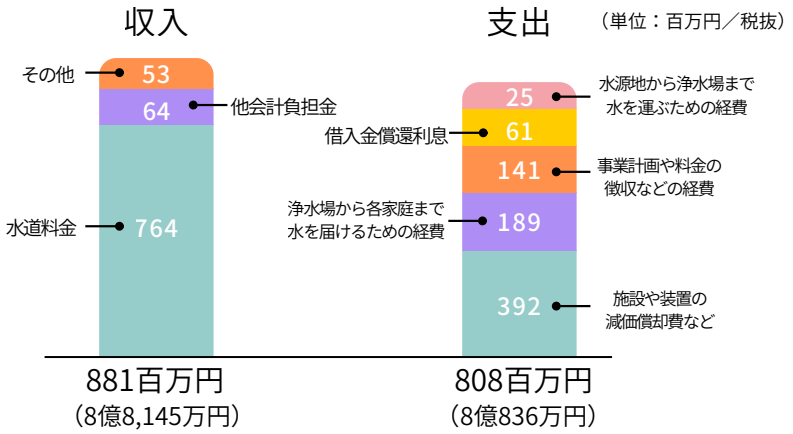
令和7年度の決算について

【水道事業】

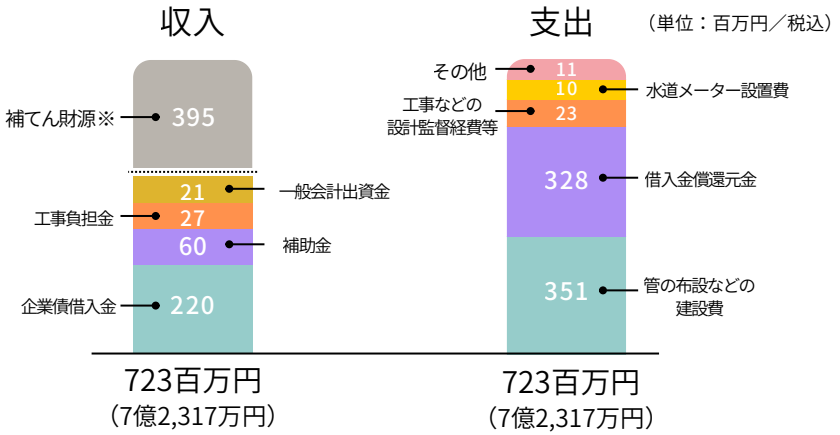
①収益的収支

水をみなさまへお届けするための経費など、
水道事業を1年間経営するために要した費用と財源です。



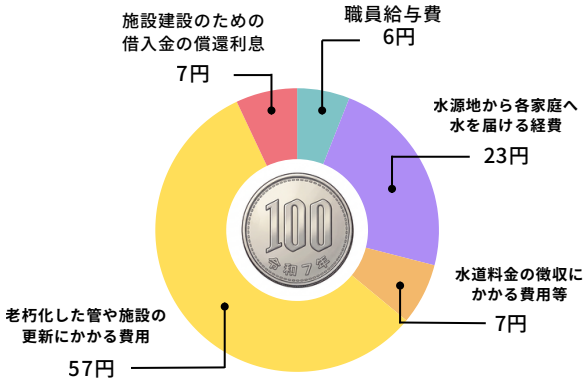
②資本的収支

水道施設（導水管・配水管など）の整備や更新に要した費用と財源です。

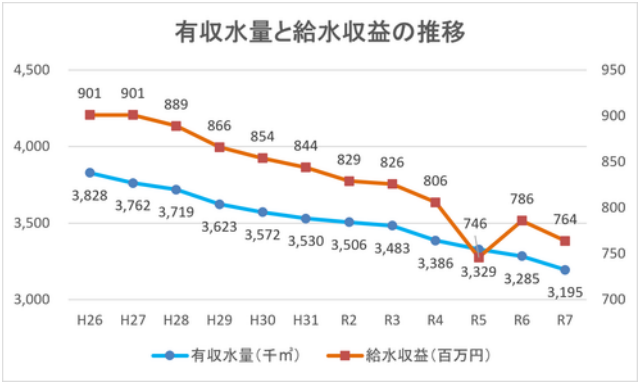


※補てん財源とは、支出に対して収入が不足する分を補うための財源のことです。
主に、減価償却費のように「費用として計上されるが、実際には現金が出ていかない費用（内部留保資金）」などが充てられます。

③水道料金100円あたりの使い道



④有収水量と給水収益の推移



※R5の給水収益の減収は、2ヶ月間基本料金を減免したことによります。

～まとめ～

令和7年度水道事業の決算は、7,309万円の純利益となり、21年連続の黒字決算となっています。

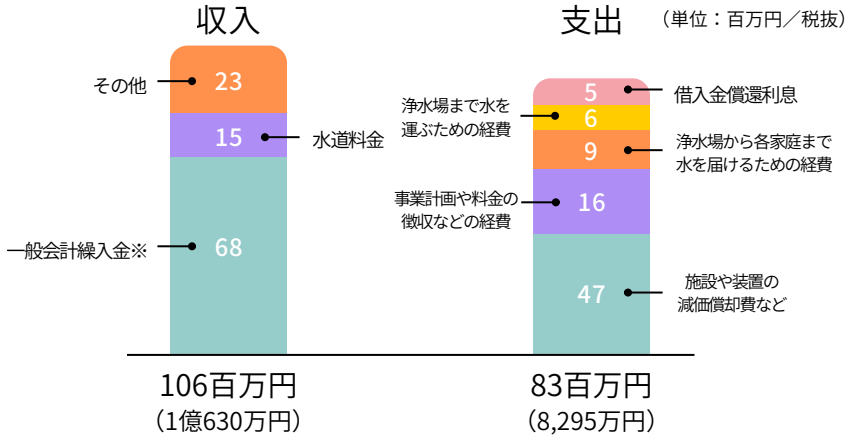
しかし、昨年と比べると、給水収益で2,195万円、純利益は3,669万円の減となっており、人口減少に伴う水需要の減少や、近年の資材・物価高騰に伴う維持管理費などの運営コスト増加の影響を受け、経営状況は厳しさを増しています。

令和7年度の決算について

【簡易水道事業】

①収益的収支

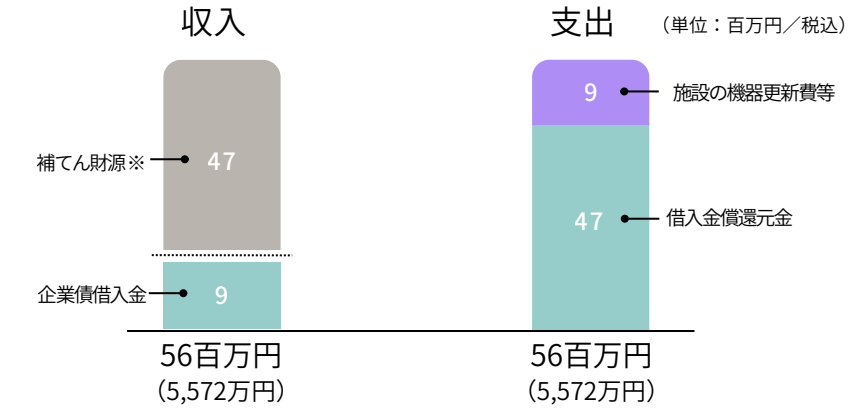
簡易水道事業を1年間経営するために要した費用と財源です。



※一般会計繰入金…簡易水道事業は給水人口が少なく、水道料金収入だけで経営を維持することはできません。そのため、一般会計より繰入金を受けています。

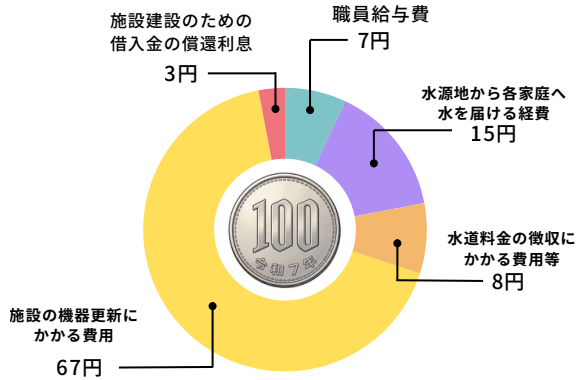
②資本的収支

水道施設の整備・機器更新に要した費用と財源です。

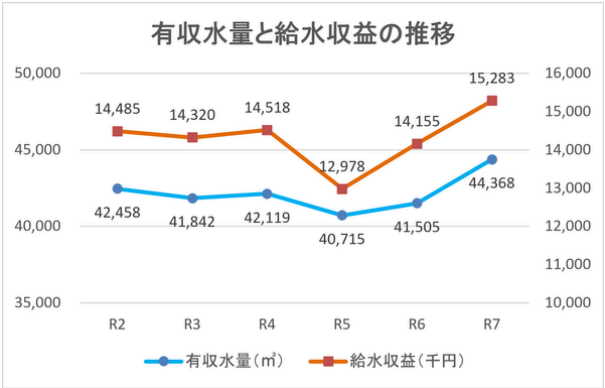


※補てん財源とは、支出に対して収入が不足する分を補うための財源のことです。
主に、減価償却費のように「費用として計上されるが、実際には現金が出ていかない費用（内部留保資金）」などが充てられます。

③水道料金100円あたりの使い道



④有収水量と給水収益の推移



※R5の給水収益の減収は、2ヶ月間基本料金を減免したことによります。

～まとめ～

令和7年度簡易水道事業の決算は、2,335万円の純利益となり、令和2年度の地方公営企業法の適用から6年連続の黒字決算となっています。

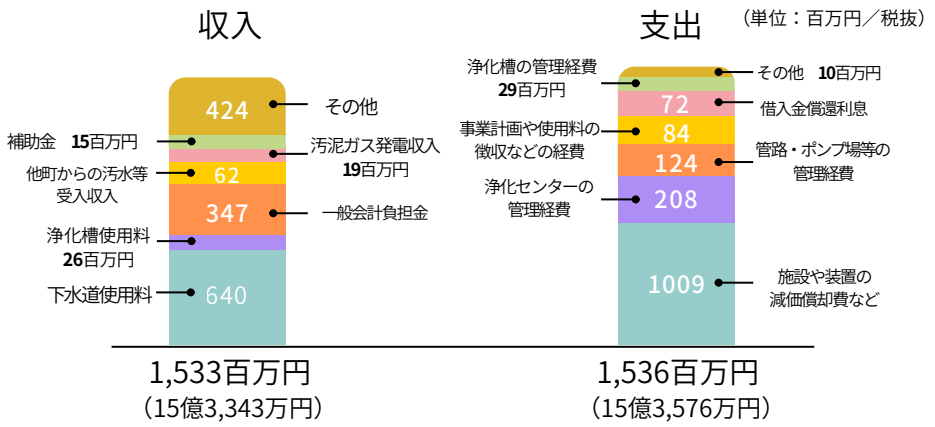
しかし、この純利益（2,335万円）は資本的収支の赤字分の補てん財源として全額あてられるため、実質の純利益は0円となります。

給水収益は前年度より113万円増の1,528万円となりましたが、今後は給水人口の減少に伴い、収益も減少していく見込みとなっています。

令和7年度の決算について
【下水道事業】

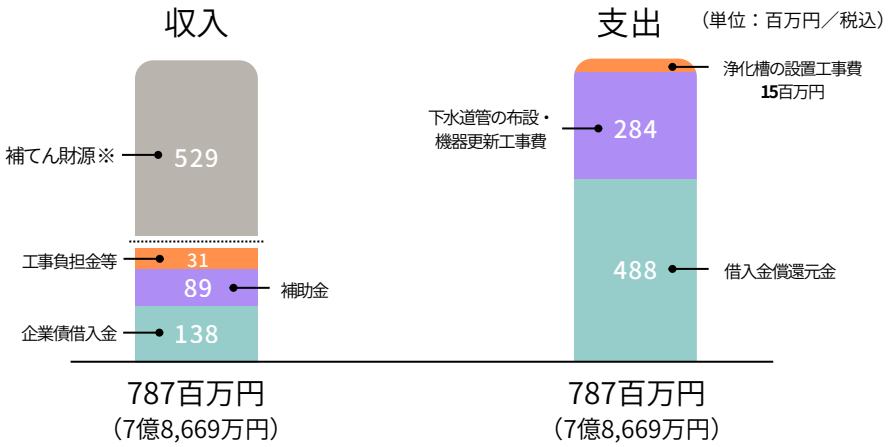
①収益的収支

汚水を処理する経費など下水道事業を1年間経営するために要した費用と財源です。



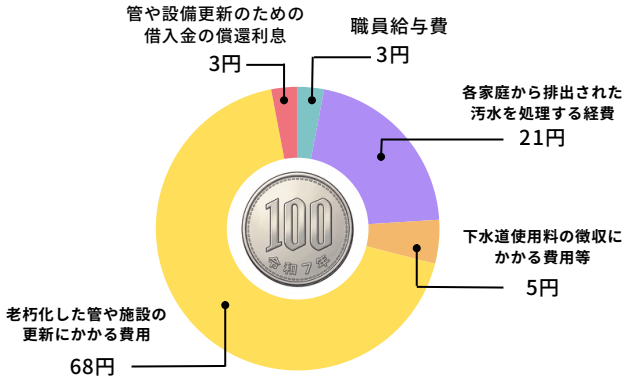
②資本的収支

下水道管の布設や施設更新に要した費用と財源です。

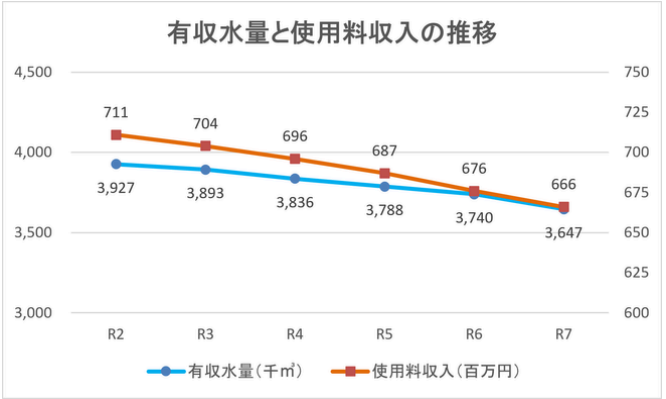


※補てん財源とは、支出に対して収入が不足する分を補うための財源のことです。
主に、減価償却費のように「費用として計上されるが、実際には現金が出ていかない費用（内部留保資金）」などが充てられます。

③下水道使用料100円あたりの使い道



④有収水量と使用料収入の推移



～まとめ～

令和7年度下水道事業の決算は、233万円の**純損失**となり、令和2年度の地方公営企業法の適用以来初めての**赤字決算**となりました。

今後においても、人口減少に伴う使用料収入の減少や、近年の資材・物価高騰に伴う維持管理費などの運営コストの増加、施設・設備の老朽化対策など、経営状況はより厳しくなることが予想され、使用料の見直しも視野にいれた経営改善に取り組んでまいります。